68 期生

３年生学年だより

豊中市立第五中学校　2022 年 2 月 28 日(月)　No.34

『酒井さん、重本さんの聴き取り学習』

22 日（火）に人権平和センターの酒井さん、重本さんをお招きし、五中校区でご自身が経験されたことやみなさんへの夢バトンとなるお話をしていただきました。「自分らしく生き合うことを大切にしてほしい」「差別で苦しんでいる人がいたときに、一緒に考えていけるような仲間関係を築いてほしい」など、たくさんのメッセージをいただきました。五中の先輩方からの大切なメッセージや思いを胸に、
卒業後も五中生だったことを『誇り』に夢バトンをにぎって進んでいきましょう。

≪みんなの感想より♪≫

改めて部落差別についてたくさん学ぶことができました。自分には関係ないと思わずに、差別というものに向き合い、差別する人もされる人もいない未来をつくっていけたらと思いました。実際に五中にも部落に住んでいて、差別された人も卒業生でいると知った時は、すごく身近に感じて実感がありました。卒業した後は、そういう人たちも一緒に仲良く生活していけるように、五中の夢バトンを自分もつないでいけたら良いなと思います。

もし誰かが差別をしていたら、今回お話を聞いた「自分は差別しない、だから一緒に差別のことを解決していこう」という言葉をかけてあげたいと思います。今回聞いたお話を、もし自分の立場で差別を受ける側だったら、隠し通したいし、怖いし、辛いだろうなと考えるだけでしんどくて悲しいと思いました。自分がされたら嫌なことは、相手にはしてはいけないということがよく分かりました。卒業してからは知らない人たちがたくさんいる場所にいきますが、その中で自分は絶対に差別しない、相手の気持ちを考えて行動し、誰かが困っていたら寄り添ってあげられるような人になりたいと思います。高校を卒業して、社会に出ても恥ずかしくないような人になります。そして、夢バトン

を次の世代につなげていきます。

自分は最初、部落差別なんてどうでもいい、差別をしている人はほっておけばいいと思っていました。だけど、今日のお二人のお話を聞いて、部落差別などの考え方が変わりました。例えば、部落問題に対して間違った考えがあるせいで、結婚できなくなってしまったりすることが分かりました。また、部落出身の人が自分が差別されていじめなどを受けるのが怖くて、自分が部落出身であるということを隠している人がいるということが分かりました。このようなお話を聞いて、部落差別などの差別という考え方をほっとくのではなく、なくすという考え方にしないといけないと思いました。また、ふれあいカーニバルで自分が楽しければいいと思っている人がいて、その人たちがすべて人任せにしている人がいることが分かりました。そういった話を聞いて、人を差別せず、対等な立場でいたいと思いました。

お二人のお話を聞いて、部落差別等差別に頭を抱える人が身近にいることが分かりました。お二人とも五中出身であるからこそ、お話に現実味を感じて、他人事ではないことが分かりました。重本さんのお話では、克明小学校出身で児童館などに通っていた経験を聞き、とても親近感がわきました。それに加えて、その体験談は誰もが小学生の頃に一度は感じたことのある話で、うなづけるものが多くありました。自分が仲間はずれにされたくないがために、立場の強い方に身を寄せてしまう気持ちは、とても共感できるものがありました。また、酒井さんのお話では、十数年前の五中の卒業生の方が、結婚において部落差別に悩まされていたと聞き、やはり他人事ではないということを再認識しました。私はこれらのお話から、部落差別等差別に関わる機会は必ずくることを心得て、間違った知識をもたないよう、注意をすることを大切にしていこうと思いました。

部落じゃない場所に住んでいるだけの人が部落に住んでいる人をバカにしたり、差別することは絶対におかしいことだと話を聞いて思いました。私も一度だけ、理由もなしに仲間はずれにされことがありました。とてもショックで、一生忘れる事はないと思います。それから私は自分の意見を伝えることが怖くなりました。誰にも相談することもできず、７年くらい経ちました。今では、どんな人にも優しく、話を聞いてあげられるような人になりたいと思っています。今日のお話はとても自分のためになったと思いました。絶対に仲間はずれや差別はしてはいけないことだと思いました。

今回は、部落問題のことについてお話していただき、ありがとうございました。酒井さんと重本さんの実話を聞かせていただいて、すごくいい話だと思いました。15 年前

卒業した女の子の話は、すごく悲しく、切ないと感じました。実際に部落のことについて学ばないと間違った考えをしてしまって部落出身の人を傷つけてしまったり、自分も後悔をするので、今回は部落問題のことについて学べて本当によかったです。ふれあいカーニバルの話もすごく悲しくなって、腹が立ちました。また会った時にはよろしくお願いします。

自分の知らない差別や経験しないと分からない差別について、経験からお話いただいたことで、自分も考えやすかったです。自分に関係ないと思う反面、忘れてはいけない事であるとは思っていますが、周りにそのような差別をされている人を知らないので、今回の話で改めて考え直すことができました。自分は差別に関して、なぜ起こるのかあまり知りませんでした。そして、なぜ差別する必要があるのかさえ理解できません。自分の将来で差別に関わる場面があるか分かりませんが、もし、自分の身の周りで差別が起こっていたら、見て見ぬふりをせず、酒井さんと重本さんのような悲しい気持ちをしている人がいるのと、世の中にはたくさんの人がいるということを忘れてはいけないと思いました。対等な関係を築くためにも、まずは「自分が差別しないこと」が一番大切なことだと思いました。

私は身の周りに部落出身の人やＬＧＢＴＱの人などがいるかどうか知らない状態なので、正直たくさんの人権授業を受けてきましたが、実感はわきませんでした。ですが、今日実際にこの五中で起こっていた話を聞かせてもらって、改めて軽く考えるものではなく、たとえ自分が経験していなくても、きちんと重く考えていく必要があるのだなと思いました。重本さんがおっしゃっていた話で、ほっとくのが一番、気にしなかったらいいということではないというのが、すごく心に響きました。今の時代、差別というものは直接的にされるより、ＳＮＳなどネットを通じての差別が増えてきて、そういう悪質なコメントは無視をするのが美徳とされている世の中は、やっぱり違うんだなと深く感じました。まだ、無視や気にしないということは、すごく難しく大変なことだと思います。たくさんの人から良いことを言われても、たった一つでも悪いことを言われていたら、どうしても考えてしまいます。なので、今回の話を聞いて、結局自分にできることは何かと考えたときに、ほっとくということは決してせず、起こっている問題に関わっていなくても、知ることが大切で、身近に悩んでいる人がいたら、そっと手を差しのべることが必要だと思いました。

強くなれる　信じ合える
一緒にわかちあえる　仲間がいれば
伝えていくよ　未来につなげる夢バトン